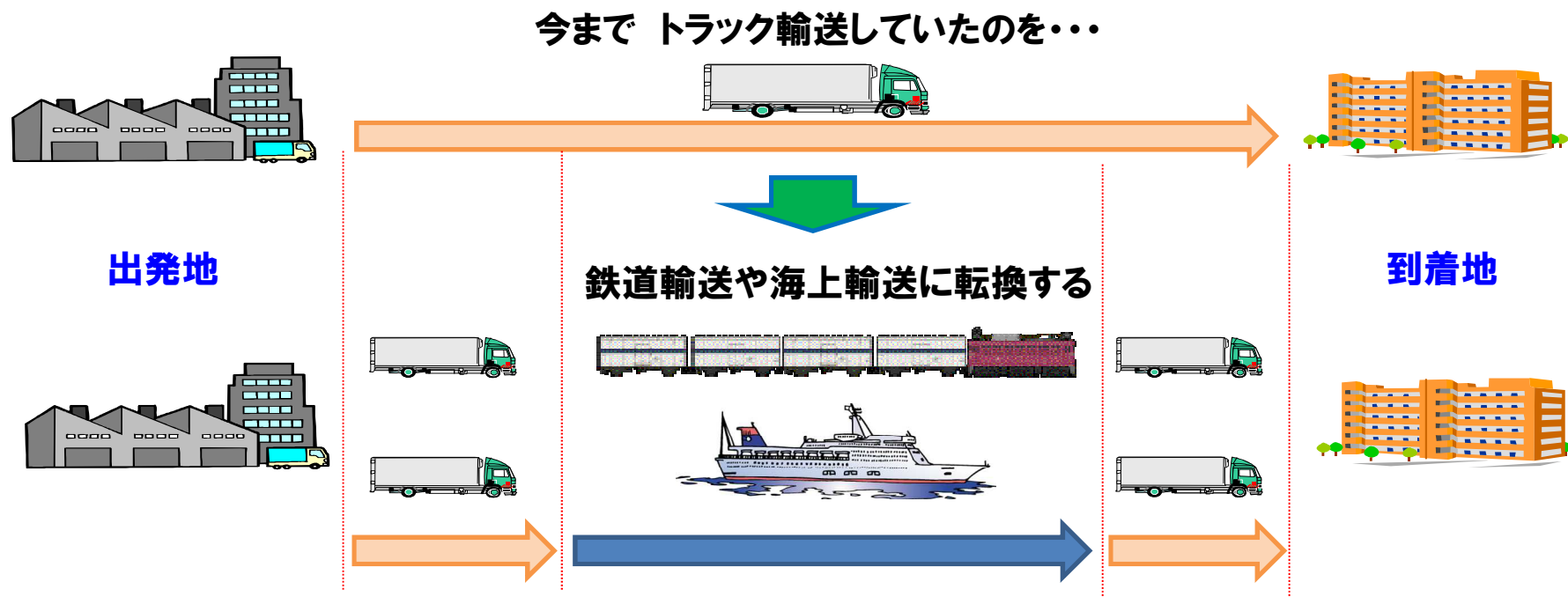


「モーダルシフト」って何？



貨物輸送の機関(モード)を環境に優しい機関に転換(シフト)すること。
一般的にトラック輸送を鉄道や船を使った輸送に転換することをいいます。



鉄道輸送や海上輸送に転換しても、発地から鉄道コンテナ駅や港まで、
また、駅や港から着地までは、トラック輸送が必要です。

C02の排出量は、トラックと比較して、鉄道輸送は約10分の1、海上輸送は約6分の1です。

トラックで全区間輸送していたところを、途中の区間を鉄道や海上輸送に切り替えることで、
C02の排出量を大幅に削減することができます。

最近での、燃料費の高騰やトラック運転者数の減少、過積載や過労運転防止などの問題にも
対応することができます。

「モーダルシフト」のメリット・デメリットは？

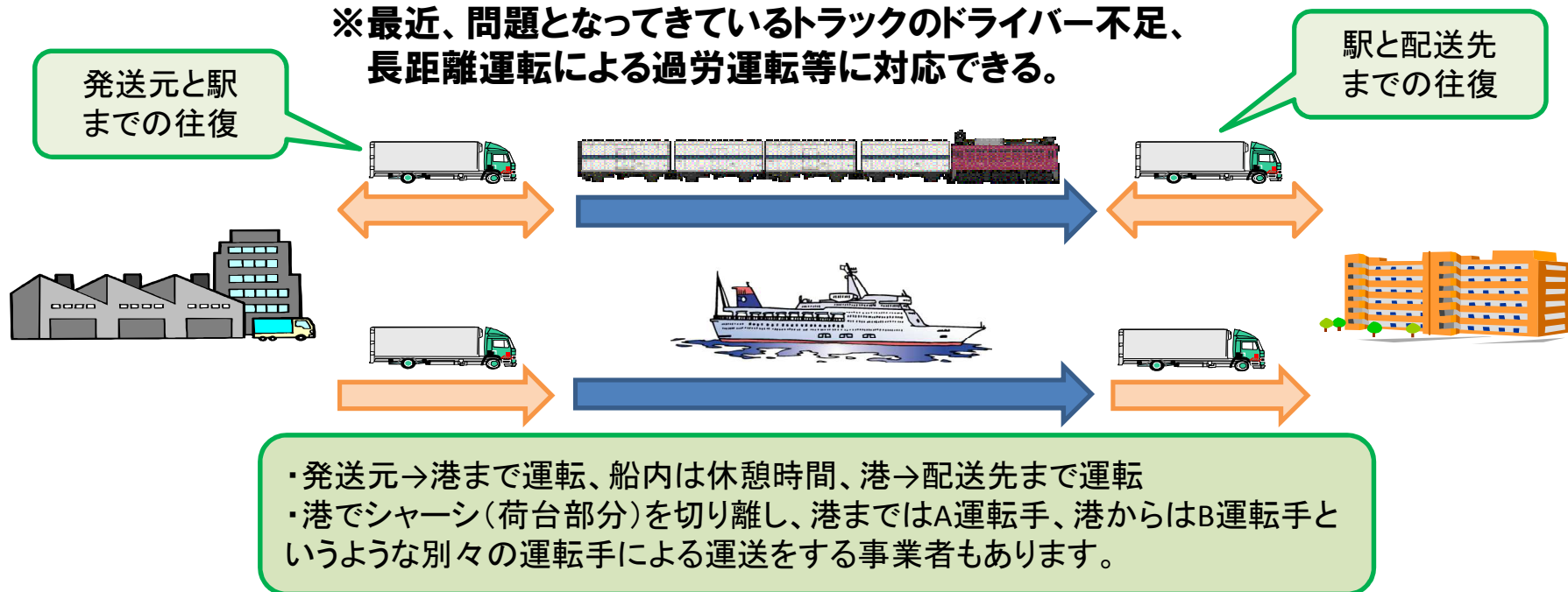


メリットは・・・

- ・CO2と排気ガスの排出量が削減できる。
- ・トラックによる交通渋滞が緩和される。
- ・長距離輸送でコストを抑えられる。
- ・輸送量に対して、トラックのドライバーが少人数で対応できる。

※事業者により異なる場合もあります。

※最近、問題となってきたトラックのドライバー不足、
長距離運転による過労運転等に対応できる。



デメリットは・・・

- ・輸送の速度(リードタイム)がトラックに比べると遅い場合がある。
- ・天候や鉄道事故の影響を受けやすい。
- ・トラックに比べると、運送時間や頻度に融通がきかない。運行(航)時間が決まっている。
- ・近・中距離輸送や荷量が少ない場合では、コストが割高となる。
- ・積み替え、積み下ろしの場所や費用が必要となる。

「モーダルシフト」が普及していくには・・・

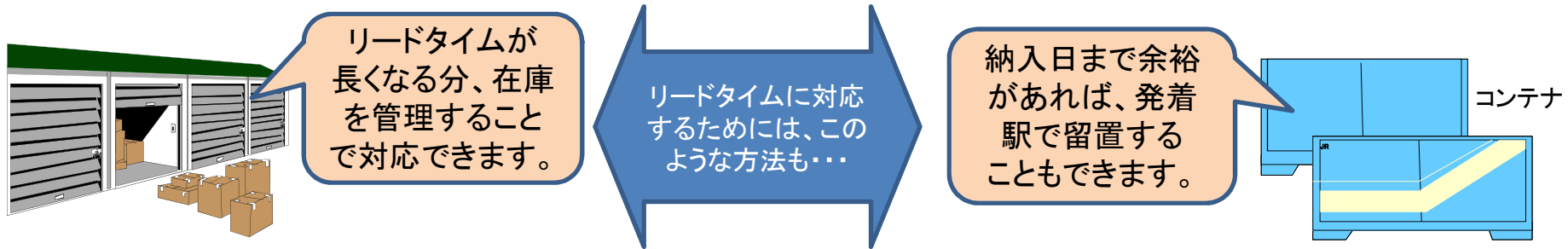
荷主や消費者など、ユーザーの環境対策への理解と協力が必要です。



もちろん、すべての品目がモーダルシフトできるものではありません。
リードタイムが長くなると、生鮮食品などには向かない品種もあるからです。

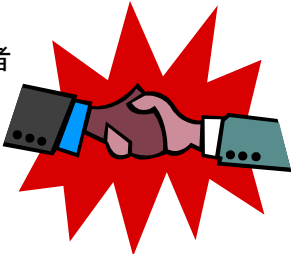


次のような対応で、先に述べたデメリット部分を埋めることができます♪



トラックの運送距離は短くなるが、ドライバー不足や燃料高騰によるコスト負担が軽減できます。

トラック運送事業者



荷主

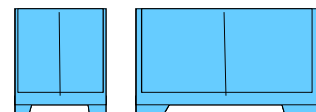
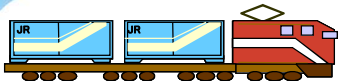


長距離輸送であるほどモーダルシフトすることで、コストを軽減できることが多くなります。

天候や事故により鉄道の運休が決定した場合、海上輸送が可能な場合は海上輸送へ変更することも・・・



※利用運送事業者によって、取扱いが異なり事例のとおりにならない場合がありますので、各事業者へお問い合わせください。

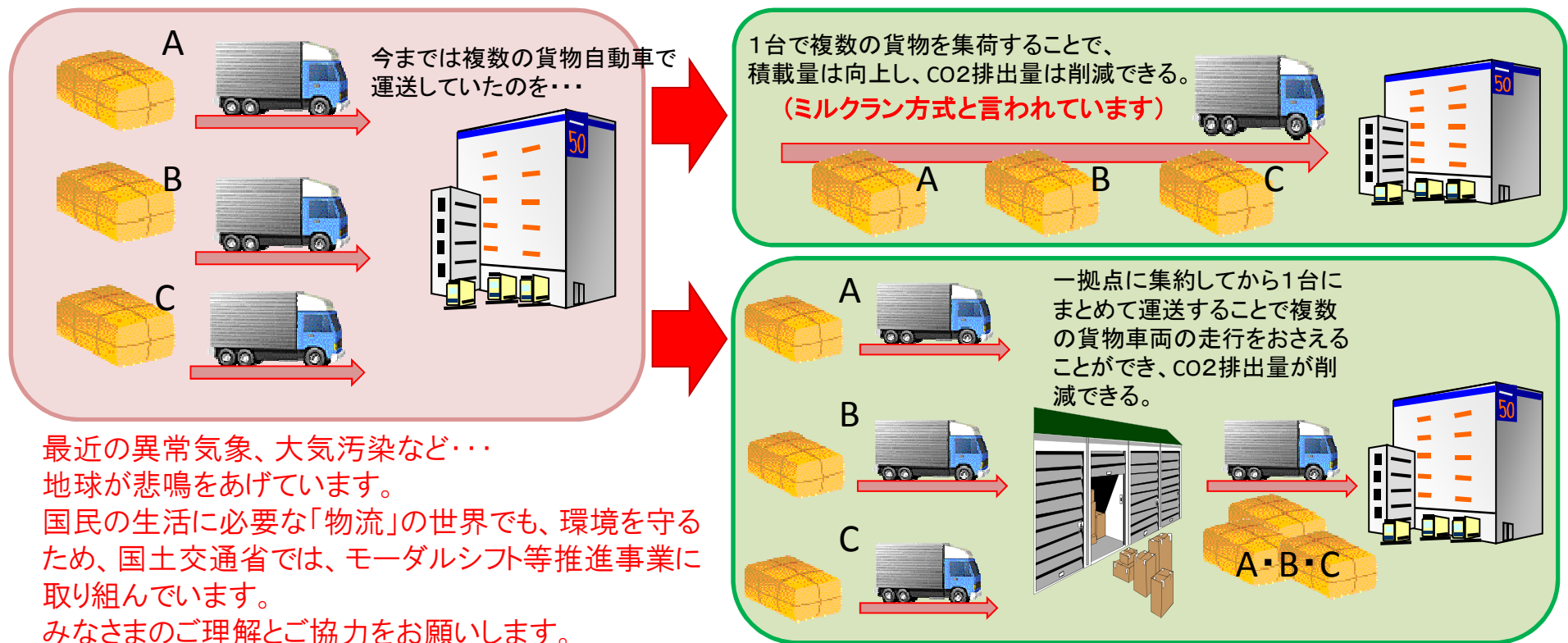


2トンコンテナは12フィートコンテナの半分のサイズ
※一部の事業者のみ

「荷量が少なくて、コンテナが埋まらない」そんな場合は、
 ・ 同じ方面に輸送している他の業者さんと一緒に混載する。
 ・ 鉄道輸送の小ロット対応の2トンコンテナを利用する。・・・などで、モーダルシフトすることも可能です。

「モーダルシフト」ではありませんが、 このような方法もあります。(幹線輸送集約化)

貨物自動車による輸送で、複数の荷主と協力して、貨物を集約し、積載率を上げることにより、走行車両台数を減らし、CO2排出削減を図ることで、地球温暖化の防止に取り組むことができます。



最近の異常気象、大気汚染など...
 地球が悲鳴をあげています。
 国民の生活に必要な「物流」の世界でも、環境を守るため、国土交通省では、モーダルシフト等推進事業に取り組んでいます。
 みなさまのご理解とご協力をお願いします。

モーダルシフトだけでなく、物流に関してのお問い合わせ・ご相談は下記までご連絡ください。

国土交通省 九州運輸局 交通政策部 環境・物流課
 電話:092-472-3154

〒812-0013福岡市博多区博多駅東2-11-1福岡合同庁舎新館